

平成26年度第3回教育研究評議会議事要旨

日時 平成26年6月11日(水) 13:30~14:37
会場 本部管理棟第1会議室
出席者 澤田学長(議長), 小川, 山本, 四反田, 西田, 佐藤(時), 武田, 伊藤, 村岡, 清水, 羽瀧, 齊藤, 今野, 長谷川, 宮本, 佐藤(修), 志立, 尾野, 大友, 鈴木, 山村各評議員
陪席 渡部, 吉岡各理事, 中村, 渡部, 南谷, 渋谷, 川東, 長谷川各学長補佐
監事 長谷部, 大橋各監事

議事

1. 平成26年度第2回教育研究評議会議事要旨の確認
平成26年度第2回教育研究評議会の議事要旨が確認された。
2. 審議事項
 - (1) 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について
西田副学長から資料により説明があり, 了承された。
今後, 軽微な修正等が生じた場合は学長に一任することとし, 6月20日開催予定の経営協議会及び役員会の審議を経て6月30日までに文部科学省国立大学法人評価委員会へ提出することが了承された。
 - (2) 国立大学法人秋田大学における教育系職員の任期に関する規程の一部改正について
小川理事から資料により説明があり, 了承された。
 - (3) 秋田県と国立大学法人秋田大学との医療・福祉産業集積に向けた連携に関する覚書について
山本理事から資料により, 連携の趣旨及び覚書(案)について説明があり, 了承された。
3. 連絡・報告事項
 - (1) 平成25年度秋田大学マニフェスト自己評価報告書について
西田副学長から資料により, 平成25年度秋田大学マニフェスト自己評価報告書を作成したことの報告があった。
 - (2) 秋田大学大学院医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター(仮称)の設置について
伊藤研究科長から資料により, 本年10月に設置予定である附属地域包括ケア・介護予防研修センター(仮称)の概要について報告があった。
 - (3) 医工連携大学院構想について
学長から医工連携大学院構想について, 理工学部及び医学部で賛同が得られたことから, 設置に向けて進めていきたいとの報告があった。続いて学長指名によ

り南谷学長補佐から、医工連携大学院構想の概要等についての説明があった。

また、構成員から「医工連携」と「医理工連携」の表記が混在しているとの指摘があり、今後は「医理工連携」に統一することとした。

- (4) 「秋田大学医工連携”夢を語る会”」の立ち上げについて
山本理事から資料により、「秋田大学医工連携”夢を語る会”」（仮称）を立ち上げることの報告と同会の趣旨についての説明があった。
- (5) 労働契約法の特例への対応方針について
小川理事から資料により、労働契約法の特例が本年4月1日から施行されたことに伴う本学の対応方針（案）について説明があった。
- (6) 女性教員比率向上への取組状況について
小川理事から資料により、女性教員比率向上のための促進策に基づくインセンティブ経費の配分等について報告があった。
- (7) 平成25年度秋田大学卒業・修了者就職状況
四反田理事から資料により報告があった。
- (8) 秋田大学オープンキャンパス2014の実施について
四反田理事から資料により、8月2日（土）に夏季オープンキャンパス、10月18日（土）に大学祭と同時開催で秋季オープンキャンパスを実施する旨の報告と協力依頼があった。
- (9) トリサクテイ大学（インドネシア）との大学間協定締結について
山本理事から資料により、6月10日にインドネシア・トリサクテイ大学と大学間協定を締結したことの報告があった。
- (10) 国立大学協会東北地区支部会議について
学長から資料により、6月4日に開催された国立大学協会東北地区支部会議について、学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律案の概要を中心に報告があった。
- (11) 全国医学部長病院長会議平成26年度定例総会について
伊藤研究科長から資料により、5月16日に開催された全国医学部長病院長会議平成26年度定例総会について報告があった。
- (12) 第64回国立大学工学部長会議・総会について
村岡研究科長から資料により、5月15日、16日に開催された第64回国立大学工学部長会議・総会について報告があった。
- (13) 附属図書館事業報告について
清水図書館長から資料により報告があった。

4. その他

(1) 資源学国際戦略センター（仮称）設置準備委員会報告

学長から、これまで資源学国際戦略センター（仮称）設置準備委員会において、国際資源学教育研究センターの改組について検討してきたが、今後、資源学系教員による教育・研究や海外支援などをスムーズに行っていくためには、国際資源学部とセンターが一体となって運営していく必要があることから、センターの教員を国際資源学部の所属とし、センターの名称は変更しないこととするこの報告があった。

続いて佐藤国際資源学部長から、資源学系教員の所属を国際資源学部へ一本化し、海外支援に際しては学部からセンターに出向させるという形をとることで、海外からの様々な要望などにも臨機応変に対応できるようになるとの説明があった。

- 佐藤国際資源学部長及び村岡工学資源学研究科長から、学生による飲酒事案についての報告及び陳謝があった。

引き続き学長から各学部長・研究科長に対し、所属教職員及び学生に対し注意喚起を行うとともに、構内での飲酒を含む飲食については、大学生協などの特に認められた場所や機会を除いては厳に慎むよう依頼があった。

次回教育研究評議会は、7月9日（水）13時30分から開催することとした。

以上